



学校だより

墨田区立第三吾嬬小学校
校長 川中子登志雄
令和3年7月1日
7月号



Rookie

名 新人、新任者、若手

(例) The rookies of 3rd Azuma Elementary School are doing their best.

第三吾嬬小学校の若手の先生たちはがんばっています。

副校長 手山 晃洋

社会に出て働く人、皆が通る「社会人一年目」。副校長の私も24歳で教師になったとき、毎日が緊張の連続でした。自宅に帰っても「〇〇の授業は上手くいかな・・・」「叱った〇〇さん、笑顔で登校してくるかな・・・」と授業や学級の子供のことで、頭がいっぱいになっていたことを思い出します。ただ、幼い頃から憧れていた「教師になれた」という誇りに満ち溢れ、目の前の子供たちの「わかった!」「できた!」「楽しい!」という反応を見て、やりがいのある仕事だと実感していました。

さて、第三吾嬬小学校も、本年度から教師になった初任者や、本校を初任校とする若手の教師、教師を目指す教育実習生など、たくさんのルーキーがいます。今月の学校だよりでは、その奮闘ぶりをレポートしてみたいと思います。



【校内授業観察（2年図工）】

ベテラン教師の授業観察から学び、自分の授業に生かします。



【体力テスト準備】

フットワーク軽く、率先して動いています。



【ICT 機器活用】

タブレット端末、プロジェクターなど、効果的に授業に取り入れています。



【休み時間の一コマ】

子供たちと一緒に、様々な活動を行っています。自然に子供たちが集まってきました。



【若手研究授業】

教育委員会から講師が来て、定期的に授業観察を行い、自らの指導力を磨きます。



【体力テストでの一コマ】

ソフトボール投げの手本。まだまだ、子供たちに体力は負けていません。

ベテランには、その経験に裏付けられた確かな指導や懐の深さ、ルーキーには、その若さや子供たちとの距離感があり、どちらも本校の教育には欠かすことができません。それぞれの教師の持ち味が十分に発揮され、よりよい教育活動が行われるように、今後も努めてまいります。